

# 分子医科学

## 1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 細川好孝(代理)  
【科目担当者】

## 2 教育目標

### (1) ねらい

研究テーマの分野の知識を獲得と共に、研究遂行のための実験技術を習得し、研究を遂行し、その成果を論文発表する。これら一連の作業を通じて、論理的思考力と研究遂行能力を涵養する。

### (2) 学修の到達目標

- ① 研究テーマに関連する論文等の情報を的確に獲得し、知識を体系として構築できる。
- ② 研究遂行に必要な実験技術とその背景にある知識を身につけ、実験を遂行できる。
- ③ 仮説を立て、その仮説の正しさを検証するための一連の研究行程を立案できる。
- ④ 実験データからその意義を正確に解釈し、これを基に次の実験計画を練ることができる。
- ⑤ 論文を執筆し、投稿できる。

## 3 授業内容

【講義】	英文論文の構造について説明し、効率的な論文の読み方、書き方を指導する。 学会発表の技術について説明し、データの効果的なプレゼンテーション法を指導する。
【演習】	必修セミナーを行う。
【実験研究】	分子生物学的、生化学的、細胞生物学的実験を行う

## 4 成績評価の方法・基準

関連論文を読み込んで、十分な知識を得ているか否かを口頭試問する。  
研究の進捗度を評価する。その際、各実験が的確に行われているか否かを審査する。  
実験結果に関する直接指導者とのディスカッションを通じて、研究計画の立案能力を評価する。  
論文執筆内容に基づいて評価する。

## 5 教科書・参考図書

細胞の分子生物学 第6版 中村桂子, 松原謙一 監訳 (2017)  
必要に応じてプリントを配布する。

## 6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

講義 15 時間に対して 15 時間の予習と 15 時間の復習  
実験研究 22 時間 30 分に対して 45 時間の復習

## 7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- ・毎回の発表活動を通して、専門的職業人に必要とされるコミュニケーション能力と、プレゼンテーション能力を修得し、研究における指導的な役割を担うことができる。
- ・分子医科学、分子病態学に関する論文の執筆と投稿を通じて、同分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。
- ・本講義の学修を通して、社会の諸問題を理解し、分子医科学、分子病態学分野の研究に精通することで、国際的視野に立った研究を遂行できる。

## 8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

各課題に対しては文書あるいは口頭にてフィードバックする。

## 9 履修上の留意点

特になし

## 10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先